

いのち
立ちのぼる生命 宮崎進 展

BREATH OF LIFE : Shin MIYAZAKI 2014年4月5日[土]-6月29日[日]



1. 《泥土》2004年、ミクストメディア・麻布・合板、227.3×418.0cm、神奈川県立近代美術館蔵

<展覧会概要>

宮崎進は1922年に山口県徳山市（現周南市）に生まれ、20歳で日本美術学校を繰り上げ卒業し出兵、敗戦後1949年までシベリアに抑留されました。戦後、取材に基づく写実的な作品を展開し、1967年には《見世物芸人》で安井賞を受賞します。1974年には、神奈川県鎌倉市にアトリエを移し、そこで旺盛な創作活動を展開します。

布のコラージュは1950年代から用いられていましたが、とくに1980年代以降、それらの作品の規模は大きくなり、抽象的になっていきます。

2004年の第26回サンパウロ・ビエンナーレには、日本代表として《泥土》などの絵画や、立体作品《Head》など12点を出品しました。

宮崎の創作の根底には、敗戦と抑留の飢餓的状况の経験から見つめ直された人間の生命への強い想いがあります。

本展覧会では、1950年代から近年に至る主要な作品、約70点の絵画と約10点の立体作品に、スケッチ類や取材写真などを加えて、宮崎進の人と芸術の全貌を回顧するものです。



2. 《習作「ヒロシマ」手》2005年、コンテ・紙、44.6×60.3cm、個人蔵



3. アトリエの宮崎進 2001年頃

<宮崎進(みやざき しん) 略歴>

1922年 山口県生まれ。
1939年 日本美術学校油画科入学。
1942年 応召。敗戦後、シベリア抑留。
1949年 帰国。日本海側から東北、北海道の各地を放浪する。寺内萬次郎に師事。日展、光風会で発表・受賞を重ねる。
1967年 《見世物芸人》で安井曾太郎記念賞受賞。
1980年 新幹線山口駅にステンドグラス《秋吉台の四季》制作。
1985年 長谷川仁賞。
1995年 小山敬三賞。
1998年 芸術選奨文部大臣賞、神奈川文化賞。
2004年 第26回サンパウロ・ビエンナーレ日本代表。

高島屋・池田20世紀・下関市立・三重県立・新潟市立・平塚市立・笠間日動・京都市立・周南市・山口県立・横浜・酒田市・広島市現代・各美術館などで個展、展覧会多数。
多摩美術大学名誉教授、多摩美術大学美術館名誉館長。

<本展の見どころ>

●2004年のサンパウロ・ビエンナーレに出品された、縦2m・横4mを超える大作《泥土》(2004年、当館蔵)、そして通常は広島市立大学内の壁面に常設展示されている、縦約2m・横約3.7mの大作《黒い大地(泥土)》(1998年、広島市立大学蔵)などの大型作品を、葉山館の天井高6mの空間に展示します。他にも縦約3.2m・横約2.7mの《冬の旅 1945》(2004年、当館蔵)、縦約2.3m・横約3.6mの《すべてが沁みる大地》(1998年、作家蔵)など、宮崎進の力量を物語る大型作品の数々を一挙展示します。

●普段なかなか見ることができない作家蔵や個人蔵の作品、また日本各地の美術館が所蔵する宮崎作品を一堂に会して展示する、またとない機会です。なお、本展は巡回しません。

<関連企画>

○開催記念講演会「宮崎進の芸術」

4月5日(土) 午後2時—3時30分
講師: 辻 惟雄(美術史家、MIHO MUSEUM館長)
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定員: 70名(当日先着順)
* 申込不要、無料

○開催記念館長トーク

5月17日(土) 午後2時—3時30分
講師: 水沢 勉(当館館長)
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山 展示室
* 申込不要、無料(ただし「宮崎進展」観覧券が必要です)

○ワークショップ「ドンゴロス鳥をつくろう」

5月24日(土) 午後1時—5時
ドンゴロス(麻布)と石膏、シュロ縄、木を使って、心の中に浮かぶイメージの鳥を作ります。(ドンゴロス: 宮崎進の作品に用いられる、コーヒード豆を入れる粗い麻布のこと)
講師: 仲田 智(美術家)
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山 講堂 および一色海岸
対象: 小学校高学年以上
定員: 15名(申込先着順)
* 無料(ただし高校生以上は「宮崎進展」観覧券が必要です)
* 申込方法は当館ホームページをご覧ください。

○学芸員によるギャラリー・トーク

4月10日(木)、5月31日(土)、6月22日(日)
いずれも午後2時—2時30分
* 申込不要、無料(ただし「宮崎進展」観覧券が必要です)

<開催概要>

いのち

立ちのぼる生命 宮崎進展

BREATH OF LIFE : Shin MIYAZAKI

会場: 神奈川県立近代美術館 葉山
会期: 2014年4月5日(土)~6月29日(日)
開館時間: 午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日: 月曜日(ただし5月5日は開館)
観覧料: 一般900円(800円)、20歳未満・学生750円(650円)、65歳以上450円、高校生100円

- * ()内は20名以上の団体料金です。
- * 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
- * その他の割引につきましてはお問合せください。
- * ファミリー・コミュニケーションの日:
毎月第一日曜日(今回は4月6日、5月4日、6月1日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。
- * 無料開館日「国際博物館の日」: 5月18日(日)は、神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご観覧いただけます。

主催: 神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社、
tvk(テレビ神奈川)、FMヨコハマ
後援: 鎌倉市、鎌倉エフエム放送、FMブルー湘南78.5MHz
協力: 湘南ビーチFM、かながわ信用金庫、湘南信用金庫、
東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

4.



5.



6.



7.



8.



9.



10.



4. 《花咲く大地》2004年、ミクストメディア・麻布・合板、200.8×233.0cm、神奈川県立近代美術館蔵
5. 《冬》1968年、油絵具・カンヴァス、33.8×45.7cm、個人蔵
6. 《頭部》2004年、木・塗料・鉄、134.0×110.0×122.0cm、神奈川県立近代美術館蔵 photo ©S. ANZAI
7. 《すべてが沁みる大地》1992年、蜜蝋・油絵具・麻布・合板、41.8×33.2cm、神奈川県立近代美術館蔵
8. 《ナナエツの少女》1996年、石膏・着彩、75.0×55.0×28.0cm、新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
9. 《ラーゲリの壁(コムソモリスク第3分所)》1988年、ミクストメディア・麻布・合板、181.8×227.3cm、高知県立美術館蔵
10. 《横たわる》2001年、麻布・ミクストメディア・石膏・木、125.0×221.0×143.0cm、作家蔵 photo ©S. ANZAI

★本リリースで使用している写真は全て広報用画像としてご用意しております。掲載希望の作品名、媒体名、掲載予定時期を明記の上、広報担当者までご連絡ください。また作家本人や展覧会の取材につきましてもお問合せください。

■お問合せ先：神奈川県立近代美術館 葉山 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
tel. 046-875-2800 / fax. 046-875-2968 / e-mail: fm4313.h6g@pref.kanagawa.jp
広報担当：土居、松尾、鈴木 展覧会担当：靱山、土居